

せる方法のほうが、抵抗も少なく、効果があったようである。さて、私は6年前から教職に転じたが、ORをシステム工学と十分に関連をもたせるように、カリキュラムの内容を順次ととのえてきた。というのも、ORが問題解決の有効な手段・方法として生かされるためには、学生に、系統的に把握させておく必要を痛感しているからである。とはいえ、その方策をどうしたらよりよくなるかについては、依然として悩みつづけている毎日である。

三井信託銀行 杉田 健

パソコン用言語として主流なのは現在のところ BASIC であり、たしかに COBOL より手軽で機能が豊富だが、日頃いろいろ不便に思っていることがあるので、この場をお借りして書くことにする。

1. いわゆるインタープリター方式なので多くのものは実行時に文法エラーがはじめて検出される非能率さがある。このためバグの多い場合は文法エラーをつぶす

ために何度も何度も実行させる必要がある。少数の会社の BASIC が行なっているようにプログラムモードで1ライン入力するごとに文法チェックする方式(私はこれこそ本来のインタープリターと思う)か、または全画面編集を前提にするなら BASIC コンパイラーを標準で提供すべきだろう。もちろん漢字・グラフをサポートしない片肺コンパイラーではダメである。

- 少数の会社を除き、十進演算で計算を処理しないため、小数点以下の計算をすると端数が正しく算出されない。金融機関においてはこれは重要なことである。さらに小数点以下×桁で切上・切捨・四捨五入するといった組込関数があると便利であろう。
- 構造化コーディングができないものが多い。企業内で使用する言語は後任者にもわかる、またメンテナンスが容易な言語でなくてはならない。この点で第4世代言語に対抗して BASIC が生き残るためには、少なくとも GOTO 文を使わなくてもコーディングできるような命令体系であるべきだろう。またサブモジュールの CALL についてポインターが使用できるとよいと思う。

会合記録

()内は出席者人数
 モニター委員会 4月3日(火)(2)
 編集委員会 4月4日(水)(8)
 経営工学関連学会協議会
 4月6日(金)(10)
 庶務幹事会 4月9日(月)(4)

OA化委員会 4月10日(火)(3)
 研究普及委員会 4月12日(木)(9)
 経営工学関連学会協議会
 4月13日(金)(5)
 評議員会 4月16日(月)(50)
 通常総会 4月26日(木)(816)
 モニター委員会 4月27日(金)(2)

入退会

移動(学生会員→正会員)
 市川宏一 神戸大学→キャンオン
 上脇太 東京工業大学→積水化学工業
 杉田修 筑波大学→船橋市役所
 中村哲也 早稲田大学→日本電気㈱

編集後記▶当学会ではモニター制度ができてから4年になります。1期(6カ月間)につき約30名の会員へお願いしています。モニターのご意見はモニター委員会でまとめられ、1期ごとに要約してOR誌に公表しています。実際には1回(1月)ごと、すべての方のご意見をまと

めますとA4レポート用紙5ページ程度に細い字でびっしりと埋まるほど内容の濃いものです。これらの貴重なご意見はOR誌編集にもできるだけ生かすよう努力しております。モニターの方へはこの場を借りてお礼申し上げます。

オペレーションズ・リサーチ

昭和59年6月号 第29巻(新シリーズ第9巻) 6号 通巻282号
 代表者 横山勝義
 発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 (電話 03-815-3351~2) 〒113
 編集人 牧野都治
 発売所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ